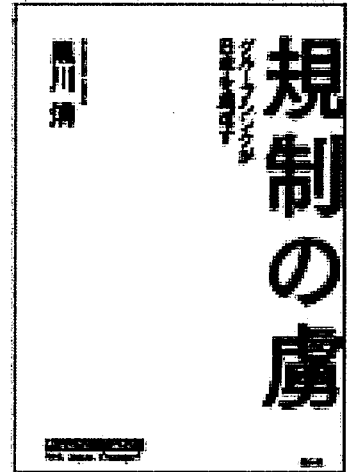


# 規制の<sup>とりこ</sup>虜 グループシンクが日本を滅ぼす

ビジネス

黒川 清<著>



講談社  
1836円

福島第一原発事故後、政府や東電など四つの事故調査委員会が立ち上げられた。このうち海外の評価が高かったのが国会事故調で、ネットで調査の様子も公開し、報告書では事故を「人災」と記した。本書はその国会事故調の元委員長による警告の書だ。本書は2部構成で、1部が調査の立ち上げから報告書提出までの経緯、2部が調査活動を経た著者の日本人論だ。医師・研究者である著者は科学者の目で原発事故を捉え、政府の発表や報道に違和感を抱く。全米科学アカデミーと

## 異論を排除する独善性に警告

意見交換し、立法府＝国会の下に調査委員会をつくることを提言。時限立法で国会事故調法が可決されると事故・被害・政策の調査、政策提言という4分野で活動を開始した。1部での活動における情報漏洩に対する厳しい対応なども興味深い。2部の調査を終えての考察も鋭い。調査を通じて著者が痛感したのは原発だけの問題ではなかった。役所や企業など多くの日本人の組織に共通する問題——異論を排除する関係者の独善的な思い込み——グループシンク（集団浅慮）だった。あれだけの事故を起こした本質的な要因が、日本人の慣習に根ざしているという指摘は読者に重く響く。

森 健

(ジャーナリスト)

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。